

全米販がコメ卸の販売動向調査

業務用の回復傾向続く

家庭用含めて 5 割が増加

全国米穀販売事業共済協（＝全米販）はこのほど、令和 5 年 6 月分のコメ販売動向調査の結果を発表した。回答の得られた会員卸 62 社の販売動向を集計したところ、前年同月比で増加が 5 割、減少が 4 割となり、前回調査（3 月分）に続いて改善傾向がみられる。向こう 3 カ月（9 月頃）の見通しは改善が 3 割、悪化が 2 割となり、かろうじて改善予想が悪化を上回った。

①昨年6月と比べた5年6月（1カ月）のコメ販売量

	仕向先別	増えた	やや増えた	変わらない	やや減った	減った
小売店	大手スーパー	7.1%	31.0%	31.0%	19.0%	11.9%
	中小スーパー	3.4%	24.1%	34.5%	29.3%	8.6%
	米穀専門店	0.0%	12.3%	42.1%	28.1%	17.5%
	その他	17.0%	14.9%	34.0%	10.6%	23.4%
業務用	外食向け	13.2%	45.3%	32.1%	5.7%	3.8%
	中食向け	6.7%	40.0%	41.7%	8.3%	3.3%
	給食向け	6.7%	16.7%	66.7%	6.7%	3.3%
	全体	12.9%	33.9%	16.1%	24.2%	12.9%

昨年 6 月の販売動向と比べた今年 6 月のコメ販売量は、「増えた」と「やや増えた」卸の合計（「増加」）が全体で 5 割を占めている。「やや減った」卸と「減った」卸の合計（「減少」）は 4 割だった。増加卸の割合が減少卸を 1 割上回っている（表①参照）。

小売店（＝家庭用）向け販売は、前々回調査（昨年 12 月分）に続いて全体的に苦戦しているが、大手スーパーにやや改善傾向がみられる。中小スーパー・米穀専門店・その他向けは、減少卸の割合が増加卸を上回っているが、大手スーパーだけが増加卸の割合が減少卸を 1 割ほど上回る 4 割となった。米穀専門店向けは増加卸が 1 割、減少卸が 5 割。卸以外からの調達が増している。

業務用向け販売は、前回の調査から好調さが継続している。外食向けが増加した卸が 6 割、減少した卸が 1 割で、外食向けの好調が昨年 9 月分調査から続いている。中食向けは増加卸が 5 割、減少卸が 1 割。前回に続いて増加している卸の割合が大きい。給食向けは増加卸が 2 割、減少卸が 1 割で、増加卸の割合が上回っている。総じて業務用向け販売の好調さ、さらに回復傾向が読み取れる。

一方、向こう 3 カ月先となる 9 月頃の販売動向を見通す観測では、全体で「良い」卸と「やや良い」卸の合計（「改善」）が 3 割なのに対し、「悪化」（「悪い」と「やや悪い」の合計）とみる卸が 2 割で、改善を予測する卸の割合が大きい（表②参照）。

②3カ月先（5年9月頃）の見通し

	仕向先別	良い	やや 良い	変わら ない	やや 悪い	悪い	DI 指数
小 売 店	大手スーパー	2.4%	19.0%	50.0%	28.6%	0.0%	48.8
	中小スーパー	1.7%	17.2%	56.9%	20.7%	3.4%	48.3
	米穀専門店	0.0%	5.4%	55.4%	28.6%	10.7%	38.8
	その他	0.0%	28.6%	44.9%	22.4%	4.1%	49.5
業 務 用	外食向け	5.6%	37.0%	55.6%	1.9%	0.0%	61.6
	中食向け	3.3%	33.3%	60.0%	3.3%	0.0%	59.2
	給食向け	1.7%	13.3%	81.7%	3.3%	0.0%	53.3
	全 体	4.8%	27.4%	43.5%	21.0%	3.2%	52.4

小売店向け販売については、大手スーパー・中小スーパー・米穀専門店向けとも悪化予想の割合が改善を上回っている。その他向けは、改善・悪化ともに3割ずつで拮抗している。

業務用向け販売の予想をみると、外食向け・中

食向けで改善とみる卸が4割ずつ、給食向けで2割ほどとなり、それぞれ悪化を予想する卸の割合を上回っている。需要が家庭用から業務用にシフトしつつある構図が鮮明だ。

9月頃を見通したDI指数は、米穀専門店向け販売の4割（ほぼ「現状維持」と「やや悪化」の境）を除いて、ほぼ5割（「現状維持」）近い割合に。スーパー（大手・中小）向けは、ほぼ現状維持とみられている。

業務用は、外食・中食向け販売の改善見通しが6割ずつ（ほぼ「現状維持」と「やや改善」の境）となり、悪化見通しは1割にも満たない。給食向けは8割がほぼ現状維持の予想だが、改善の見通しが悪化を上回っている。